

日本学術会議社会学委員会「社会理論分科会」第24期・第1回会合  
(2018年4月1日 於学習院大学東2号館8階第一会議室 16:15-17:40)

議事要旨

**出席者**

今田高俊 江頭大蔵 遠藤薫 佐藤嘉倫 園田茂人 友枝敏雄 真鍋一史 三隅一人  
村松潤一 山田真茂留 矢澤修次郎 渡辺秀樹

**欠席者**

盛山和夫 町村敬志 吉原直樹

**議題と決定事項**

(1) 役員を選出

委員長に友枝委員、副委員長に遠藤委員、幹事に園田・山田両委員が選出された。

(2) 今期の活動について

委員長から前期の活動内容(3つのシンポジウムの実施など)について紹介があった。また副委員長などから補足的な説明がなされ、今期の活動としてどのようなことを行うかについてのブレインストーミングがなされた。具体的には、(1)自然科学優位の研究教育行政が進行する中で、どのように社会を理解することの重要性を訴えるか、より具体的には、大学での教養教育の中に社会学をどのように位置づけるか、(2)とはいえ、既存の社会学の重要性を訴えるだけでなく、積極的に他分野との連携、共働、共創にチャレンジすべきではないか、(3)2020年度に高校の学習指導要領が改訂され新しくなる状況にあって、社会的なパースペクティブや考え方などを高校教育の中に組み込む必要があるのではないか、といった点が指摘され、これらの論点をめぐって意見交換がなされた。その結果、次回の分科会までに役員が会合を開いてたたき台を作り、次回会合で継続審議することとなった。

また、今期から本分科会に参加するようになった3名の委員(江頭委員、三隅委員、村松委員)に、本分科会で研究報告をするよう依頼がなされ、今回は三隅委員が担当することとなった。

(3) その他

今回欠席の委員の事情も踏まえ、次回の会合日を7月1日(日)か7月8日(日)午後2時から4時までの、いずれかに設定することが確認された。